

学校教育目標 自ら学び、正しく行動する国際性豊かな児童生徒の育成



An aerial photograph of a river valley. A winding road follows the river's course through a hilly landscape. In the upper right corner, there is a small circular inset showing a globe of the Earth. The image has a textured, almost woven appearance.



す。1 分で 12 人が死に、4 分で 1 クラスの子供たちがいなくなります。5 人に 1 人が、雨が降った後の水たまりの水や汚れた水を飲むしかないところで暮らしています。さらに、3 人に 1 人がトイレのないところで暮らしています。穴を掘ってうんちやおしっこをするので、大雨が降った後、流れ出します。

世界に 10 人の人がいるとすると、そのうち 2 人はお金持ちで豊かな暮らしをしています。日本もその中の 1 人です。(現在、地球の人口は、2022 年で 80 億人) 残りの 8 人のうち 1.5 人は、すごく貧しい暮らしをしています。約 8 億 2100 万人です。一方で、地球上で食べるためにつくられた食べ物のうち、3 分の 1 が捨てられています。それは 13 億トンになります。日本は、1 年間で 2800 万トンの食べ物を捨てています。日本人一人あたり、毎日ごはん一杯分の食べ物を捨てていることになります。(小学校 6 年生で学習)

貧しい国の人々は、毎日の食べるものにも困っています。なぜ、こんなに違いがあるのでしょうか。それは、世界がお金で物を買う社会の仕組みになっているからです。お金があれば、安全で、あふれる物に囲まれて、水をたっぷり使い、食べ残すほどの食べ物を買うことができます。日本は、10 個食べ物があるうち、4 個しかつづることが出来ていません。(5 年生で学習)

これからの地球の問題を解決していくのは、AI の力を借りながら、人間が行うことです。小・中・高と社会科の中でこれらのことを勉強していきます。この問題について自分事として「自分の考えを広げ深め」、主体的にみんなで話し合って学び、未来の社会づくりに自ら参加していく子供たちの育成をしていかなければなりません。(参考「考えよう世界のこと」真珠まりこ著 講談社)

一年の計は元旦にあり

私たちにできること 6 年 1 組

私たちにできること「森林破壊を止める」

織田 理史

【提案のきっかけ】

5 年生の夏休みの自由研究で SDGs について調べて、その時に森林について知り興味をもったからです。くわしく調べてみると、1990 年時点で世界には 41.28 億ヘクタールあったのに、2015 年になると 39.99 億ヘクタールにまで減少してしまいました。これは 25 年間で 1.29 億ヘクタール、およそ南アフリカの面積ほど減少してしまったのです。また、森林破壊は温暖化にもつながります。こうした森林破壊により、生き物の数も減ってしまっています。このように森林破壊は他の環境にも悪いいきょうをあたえるのです。以上のことから、森林破壊を防ぐために私たちにかん単にできることを 2 つ提案します。

【提案】

森林破壊の現状についてくわしく知ってもらうために、ポスターで現状を伝え、私たちにできることを書いた紙をけい示しようと思います。この 2 つを呼びかけることで、全員で取り組むことができるからです。具体的には次のような内容をけい示します。

- ・年々減ってきている森林の面積をグラフで表す。
- ・自分たちができるかん単なことのーらんをまとめた紙をけい示する。

みんなで意識して生活することで、一人では考えられないことも考えられて、持続可能な社会に少しでも近づくとおもいます。



私たちにできること「食品ロスを減らす」

中西 奏人

【提案のきっかけ】

きっかけとなった経験は、ぼくは日本の学校では給食の時に、食品ロスが出ないように自分が食べきれる量だけついでもらっていた。でもアメリカの学校では量が決まっていて、食べる前に減らしたり、増やしたりすることができなかった。だから全部食べられずに、残している人が多いことに気づいた。その経験から食品ロスを少しでもなくすために、私たちができることを考えてみた。日本の食品ロスについて調べてみたところ、日本では年間 2759 万トンの食品廃棄物が出ていることが分かった。その内、食べられるのに、廃棄されている食品(食品ロス)が 643 万トン、日本人一人あたりにかん算すると、毎日約 136 グラム(お茶わん 1 杯分)を捨てていることになる。

以上のことから、食品ロスをなくすために私たちができることを提案したいと思う。

【提案】

私たちにできる事として、買い物面での工夫、料理をするときの工夫、食事をするときの工夫などがあるが、小学生の私たちにできる事は、食事をするときの工夫だと思う。なのでぼくは、みんなができるような食事をする時の工夫を提案したいと思う。

- ・好ききらいをなくすように努力する。
- ・食べきれなかった料理は、保存して早めに食べきる。
- ・外食では、食べきれる量だけ注文する。

ここにいるクラスの全員がこの 3 つを行えば、食品ロスを少しでも減らすことができると思う。そして、家族にも伝えてみんなで行えば、もっと食品ロスが減ることにつながると思う。

私たちにできること「食品ロスを減らすこと」

片岡 美裕

【提案のきっかけ】

私は、日本の学校にいた時 SDGs について学びました。その時に食品ロスが問題になっていることを知りました。食品ロスが増えるとごみがふえ、水分の多い食品を燃やすと時余分な CO2 を排出します。そうすると、環境に大きなえいきょうを出します。さらに、食品ロスの現状は、世界で 9 人に 1 人が栄養不足であること、日本のロスは年間約 522 万トンでいて、お店からは 275 万トン、お家から 247 万トンでています。以上のことから、今回は食品ロスを改善するために、3 点の提案をします。

【提案】

2030 年までに目標は、お店から 273 万トン、お家から 247 万トンの食品ロスを減らすことです。その目標を達成するための取り組みを考えました。

1. お店で食品を買うときに、必要かどうかを考え必要な分だけ買う。
2. 食べ残しをしないように、食べられる分だけ作る。
3. 賞味期限が切れていてすてることがないように、賞味期限をこまめに確認する。

これらのことを気をつけることで、すてて食品が少なくなり、余分の CO2 が減って地球温暖の問題の解決につながる私は考えました。以上のことから、私はこの 3 点のことに気をつけたいと思いました。

食品ロスを減らそう！



私たちにできること「食品ロスについて学び、食物のむだをなくそう」

ヨーク アリソン

【提案のきっかけ】

ごみ・食品ロスの問題にかんする記事で、食品ロスの問題があることを知りました。食品ロスとは、まだ食べられるのにすてられている食品のことです。日本では、お店での売れ残りや家庭でのごみ（「食品ロス」だけで 1 年間に 646 万トン、国民 1 人 1 日当たり約 140 グラム、およそお茶わん 1 ばい分）が発生しています。食品をすててしまうと、食料資源がむだになって、食料不足になります。また、土地や水、エネルギーがむだになります。自然をはかいするため、地球温だん化にもなります。注意して見てみると、私のまわりでも、たくさんの食品ロスがあることに気がつきました。まず、家でごはんをときどき全部食べないで、残すことがあります。学校でも、多くの人が、食物を買ったのに食べないですてている人がいます。以上のことから、私たちがどんなことができるか調べてみました。

【提案】

まず、食物を残さないことです。すききらいをなくして、全部食べるようにすることです。それから、お買い物に行く前は、れいぞうこに何があるか確認して、必要ないものは買わないようにすることです。それから、レストランに行ったときには、食べられない以上の物はたのまないことです。これらのことを多くの人に知ってもらうことにより、食品ロスを少なくすることができると思います。

私たちにできること「地球温暖化」

宮崎 百菜

【提案のきっかけ】

私は、前にインターネットで地球温暖化という言葉を知りました。地球温暖化によって、世界の平均気温は上昇を続けているということが知られています。IPCC（気温変動に関する政府間パネル）の第 6 次評価報告書によると、1850 年から 2021 年の間に 1.85 度上昇したという結果が出たそうです。地球温暖化によって、氷河や氷床が解け、海面の上昇を引き起こしています。海面上昇によって、砂浜の消失や国の浸水などが起こる可能性が高まります。地球温暖化の上昇は、農作物に影響を与えるということが分かっています。例えば、お米の場合濁りやヒビが入ってしまったり、炊いたときに崩れやすくなるのが主な影響です。厳しい対策を取ったとしても、一度あたりの上昇は避けられないといわれるほど、深刻な問題です。このような状態を少しでも防ぐ、そして支えるためには、みなさんに協力してもらう必要があります。

【提案】



地球温暖化防止のためにできることがあります。私たちのもとに水が届くまでには、多くのエネルギーを消費しています。その水は使った分、エネルギーを無駄にしているのです。それと、外出の場合、自転車や徒歩であれば、CO₂ を排出したり、限られた化石燃料を使用したりすることはありません。しかし車を使用すると、多量の CO₂ を排出し、限られた化石燃料を使用することになります。このようなことから温暖化が発症します。みなさんが生活しているときに、このようなことについて考えたり気をつけたりすることで、未来の気温は変化が少なく、氷床が解けることや農作物への主な影響が少なくなるかもしれません。

第 43 回海外子女文芸作品コンクール

世界中から 2 万点を超える応募があり、河野あいねさんが俳句の部で佳作に入賞しました。おめでとうございます。

佳作 インディアナ日本語学校 中学部 1 年生 河野あいね

日本より 強さを感じる 愛かな

校長賞 「農業で地球温暖化対策」

高等部 1 年生 梅村 彩音

皆さん牛丼は好きですか。日本を代表する食べ物のひとつですよ。しかし、牛丼のメインの食材、お米と牛肉を作る過程が、今、地球温暖化に影響をあたえていると言われています。

私たちが日々、食べている食品、お米やお肉が、意外にも温室効果を持つガスを発生させる原因になっていること、また、そんな食品を作ってください、私達には必要不可欠な農家の人たちが抱えている地球温暖化の問題を事を今回、皆さんに知って欲しいです。

最近の農業のニュースで、ニュージーランドで、げっぶ税というものが 2025 年から誕生する事が発表されました。牛や羊などから排出されるげっぶ量から、その動物を飼育を行っている農家たちから税金を取る、というもので、地球温暖化対策のひとつとしての政策です。

私は、このニュースを知った時、実際に二酸化炭素の排出を削減してないし、税金を取ることで何が変わるの？と思いました。しかし、家畜の多いニュージーランドの国民から見ると、この政策は効果的なものかもしれない、と記事を読んで思いました。

牛や羊などは反すう動物といい、一度食べたものを口の中に戻してそしゃくするというのを繰り返します。この独特な行動が、げっぶの量を多くするとの事です。また、げっぶはメタンガスというもので、記事によると気候変動の原因といわれる温室効果ガスの中で、二酸化炭素に次いで 2 番目に排出量が多いのがこのメタンガスです。メタンガスは二酸化炭素の 28 倍の温室効果を持ちます。

この記事を読んで二酸化炭素ではなく、より温暖化に影響するメタンガスの事を調べてみたら、日本でも水田からよく出ることが分かりました。この政策を日本に置き換えて考えてみると、ニュージーランドより、農業への関心は少ないが、お米は多くの日本人が主食としてほぼ毎日食べる食品、お米の値段が上がるという事になります。この値段が上がったら、多くの人々がメタンガスの存在に気づき、そのガスによる温暖化の危機に気づくでしょう。

この、ニュージーランドの政策から、私は、地球温暖化という大きな問題には国民、全員の理解が必要で、一丸となって一つの目標に向けて行動する事が対策に繋がり事を改めて、感じました。また、大勢の人が動くには、皆が関わるきっかけが必要。そのきっかけはニュージーランドのげっぶ税が作っているのだとわかりました。一方、この税金によって、農業の人たちに負担がかかるのは確かです。国民はこの税金の制度をしっかりと理解して生活しなければなりません。

以上の事から、牛丼は多くのメタンガスを排出する食品を掛け合わせた商品となります。私は、牛丼を食べるなどとは言いません。むしろ、目の前に牛丼があったら、メタンガスを削減しようとする農業の人たちの努力に感謝し、最後までしっかり間食して欲しいです。メタンガスを家庭で削減するのは難しいです。なので、農家の人たちの感謝を表すという事、もっと農家の人たちの技術開発をサポートするという意味で、食品を買って、消費して欲しいです。

【お知らせ 〈1 月の予定〉

1 月 7 日 ○3 学期始業日

配布物 なし

1 月 14 日 ○高等部進学進級説明会 中学部 3 年 高等部
(ZOOM につきましては、Canvas でお知らせします。)

○書初め体験会 小学部 5、6 年 中学部 1、2 年

1 月 21 日 ○避難訓練 トルネード ○書初め体験会
○幼稚部 小 1 授業見学

1 月 28 日 ○幼稚部節分集会 ○第 2 回漢字能力検定

書初め体験会 (国語の授業)

1 月 14 日 小 5、6 中 1、2

1 月 21 日 中 3 高等部

- ・習字道具は必要ありません。学校のものを使います。
- ・墨がついてもよい服装
- ・学校に新聞紙が少ないため、もし家にあれば、学校用に数枚ご協力してください。